

旭川医科大学 卒後臨床研修センター通信



平成24年1月号
発行:旭川医科大学卒後臨床研修センター

センターの活動予定

- ◆2月16日(木) 医学科3年生対象「母校の講座を知ろう」
- ◆2月20日(月) 医学科2年生対象「母校の講座を知ろう」
- ◆2月21日(火) 医学科1年生対象「母校の講座を知ろう」
- ◆2月下旬 センター通信 2月号発行

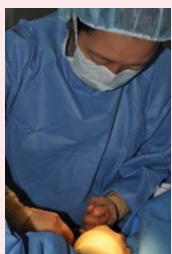


研修医 体験談 第1回 高橋千晶先生

研修医2年目の高橋千晶です。私は、医学部6年の最後のほうで皮膚科入局を決めたので、今は選択を使って皮膚科研修中です。

研修医の体験談ということですが、皆さんが想像する研修医とはどのようなものでしょうか。寝る暇もなく、日々仕事と勉強に追われるものを想像する人が多いかと思いますが。実際、寝る暇も飲む暇も、私はしていませんが合コンする暇だってあります(つまり、恋する時間もある)。ただ、それは、私が勉強する時間を寝る時間などに充てているためであって、勉強をやってやる!!とやる気になった場合は、そういう時間は激減するかもしれません。私の先輩は、寝る暇もなく日々勉強に費やし(もちろん、恋もせず(たぶん))ほぼ病院で暮らしている、というような人もいます。尊敬はできますが、同じようにやれと言われても、私は難しいかな、と思います。自由な時間はあるが、それをどう使うかは人次第というところでしょうか。

旭医での研修となると、やはり大学院なので、他の地方病院と比べて人がいます。つまり、教えてもらえる機会やいろんな考え方に触れる機会が多いということです。実際、この研修期間中に放置プレイをされたことは、ほぼありません(あくまでも、“ほぼ”です。ゼロとは言いません)。いつでも、先輩先生方の門は広く開かれ、質問にも快く答えてもらい、お昼ご飯だっ一緒に食べてくれます(プラス一緒に飲みにも行ってくれます)。結構、いよかなり楽しいです。また、科も充実しているので、救急外来当直になったときなど、すごく心強いです。“やばい、こんなのわからん…”と思っても、必ず指導医がついていてくれるので相談できます。1人ぼっちで判断ということはありません。私は、それは本当にありがたいことだなあと日々思っているのです。甘えてしまうという欠点がありますが、初期研修医が終わり、今後は一人で判断して、一人で診断していかなければいけないのですが、その準備段階として今があるのとないのでは大違いです。私は、先ほども述べたように、勉強もあんまりちゃんとしなさい、人の言ったことは調べずに鵜呑みにするしで、私の判断に未だ自信はこれっぽっちも持ってません。そんなときに、「いいと思うよ」とか「やってみなさい。責任はもつから。」と言った本当にありがたい、お上の一言があると、“やってみよう、がんばろう”と思うのです。



どの病院にもいいところ、悪いところがあると思いますが、私はこの病院での研修、悪くないなあと思っています。外病院に行った友達の話聞いて、羨ましく思うことも、自分が情けなくなることもあります。私は旭医で充実した日々を送っていると断言しましょう。



【報告】研修医セミナー

平成24年1月26日(木)に研修医セミナーを開催しました。今回のテーマは「実践 腹部エコー」で、第3内科の鈴木康昭先生のご指導の下、研修医5名が参加しました。DVDと鈴木先生の実演で基本的な操作法を学んだ後、学生さんの協力もあり、全員が実機を用いて実践することができました。質問も活発に飛び交い、有意義なセミナーになりました。



「母校の講座を知ろう」

卒後の研修先の選択の際の参考にさせていただくためにまず母校の各講座を紹介します。その方法としてまずこの紙面で順次1講座ずつ紹介します。さらに医学科1年生～3年生にはそれぞれ2月の期末試験の後に講義室で機会を設けます。基礎と臨床の教室の教員の方から具体的な仕事の内容、働きがいはどこにあるのか、将来はどんな道が開けているのかなどを紹介いただきます。

母校の講座紹介 第1回 病理学講座 免疫病理分野(旧第2病理)

免疫病理分野は基礎研究と診断病理が主な仕事です。基礎研究は1. 悪性腫瘍に対する癌免疫、2. シラカバ花粉症などのアレルギー性疾患、3. マクロファージや好中球などの自然免疫に関するものです。診断病理は主に関連病院からの生検や手術材料を診断しています。各病院の治療方針の決定に重要な役割を担っており、地方都市と回線を結んで術中迅速診断にも対応しています。免疫病理分野では、研究者として一人立ちしたいひと、病理診断という臨床医学を極めThe doctor of doctorsになりたい人も、やりたい事に応じた多様な進路をとることができます。医局員の中には育児をしながら仕事を続けているものもあり、子育てをしながら働くことも可能です。実験でよいデータを出したり正確な診断にたどりついた時の喜びを私たちと一緒に共有してみませんか?興味のある方はaoq@asahikawa-med.ac.jpか免疫病理の教室(7F)までお気軽にどうぞ。



～研究風景～



卒後臨床研修センタースタッフ紹介 第1回 センター長 大崎 能伸 教授



1980年の旭川医科大学の卒業で、2期生。学生時代は弓道部に所属して、2代目の主将を務めました。大学院に進学し、肺癌の抗癌剤感受性の研究をして、医学博士を授与されました。大学院修了後に旭川医療センターで呼吸器内科医として2年間勤務した後、助手に採用された1986年から旭川医科大学に勤務しています。1990年からはメリーランド州のNCI-MOB/NIHに3年間留学し、3年目はUS Air Forceの職員という身分でした。2008年に呼吸器センターの教授に就任し、2011年からは卒後臨床研修センター長を拝命しています。この経験を生かして、皆さんの卒後臨床研修プログラムに魂を入れたいと思っています。A型で乙女坐、KARAファンです。

【お問い合わせ先】

旭川医科大学 卒後臨床研修センター
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 TEL 0166-68-2198 FAX 0166-68-2199
E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa.ac.jp
ホームページもご覧ください。
<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/>